

第6回 追浜駅交通結節点事業計画検討会 議事概要

■日時 令和7年5月29日（木）15：30～16：30

■場所 横浜国道事務所 災害対策室

■出席者

【座長】 東京大学大学院 教授

羽藤 英二
(WEB参加)

【委員】 横浜国立大学大学院 准教授

野原 卓
(WEB参加)

東京都市大学 准教授

稲垣 具志
(WEB参加)

東京理科大学 准教授

柳沼 秀樹
(WEB参加)

京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 鉄道統括部長

四宮 浩

京浜急行電鉄株式会社

生活事業創造本部 開発事業部長

坂齊 素彦

京浜急行バス株式会社

常務取締役 経営戦略室室長兼経営企画部長

渡邊 浩司

神奈川県タクシー協会 横須賀支部 支部長

市川 壽一

日産自動車株式会社 渉外部 担当部長

小島 誠太

(代理：伊藤)

日産自動車株式会社 追浜工場 人事総務部長

榎本 心

株式会社横浜 DeNA ベイスターズ

コミュニケーション統括部 BPO ファーム担当

箕輪 忠行

神奈川県 田浦警察署長

相川 努

神奈川県 県土整備局 技監兼都市部長

近藤 修宏

神奈川県 県土整備局 道路部長

中丸 博史

(代理：石川)

横須賀市 副市長

田中 茂

横須賀市 まちづくり政策担当部長

工藤 久幸

国土交通省 関東地方整備局 道路部長

野坂 周子

(代理：水澤)

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所長

宮本 久仁彦

(※順不同、敬称略)

【事務局】 横須賀市 経営企画部 まちづくり政策課

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 調査課

■座長のあいさつ

- ・ 追浜駅は、横須賀市の北の玄関口で、多くの企業や教育機関、商店街が広がるポテンシャルのある街だと認識しているが、駅周辺に施設が密集し、交通混雑や安全性の問題といった課題がある。周辺事業と一体的に整備することで、ミクロだけでなく、メゾあるいはマクロレベルで広域的な災害対応強化など社会的にも意義ある事業になると期待している。
- ・ 事業計画策定後、関係者で議論を重ね、運転手不足を踏まえた連節バスの導入可能性を加味した交通ターミナル形状の変更やユニバーサルデザインに配慮したデッキ整備の基本方針の整理、駅前空間の立体的活用を実現するための官民連携を前提とした事業スキームの具体化に関して、一定程度の熟度に達したため改定案をとりまとめた。本日はこの内容について活発な議論をお願いしたい。

■議事

- ・ 本検討会では、事業計画の改定に向けて、「事業計画策定後の取組について」と「事業計画（改定）案」について事務局より説明を行った。
- ・ 事業計画（改定）案については、改定の大枠について委員一同で合意し、引続き事業を進めるものとした。

<議事内容に対する委員の主な意見>

（資料１：事業計画策定後の取組について）

- ・ ここまで事業を順調に進めていただいたとの理解である。

（資料２：事業計画（改定）案）

- ・ 本事業は、ミクロやメゾ、マクロのポテンシャルがある。単なるバス集約にとどまらず、広域的な価値の創出や横須賀市の都市拠点間、横浜市との関係強化などを通じて向上する追浜バスタの価値や方向性を説明することで、事業者を含め、多くの方々に感心を持ってもらうとともにデザインの調整やあり方の議論も重要となる。デザインセンターの活用も含めて、地域にも開かれた議論を進めていただきたい。
- ・ ユニバーサルデザインやバリアフリーへの観点から、イメージ図であってもパースに階段のみの部分があることが懸念される。情報の独り歩きによる合意形成の困難さには注意すること。心身が不自由な人がいかに質の高い時間を過ごせるかが重要である。可能な限り早い段階から多様な利用者の参画を実現させることが肝要である。交通ターミナルは、車椅子利用者や視覚障害者を含めた円滑な移動動線、待ち行列・滞留空間を確保するため、歩行空間の必要面積も考慮しながら車両動線を検討すること。
- ・ 今後は、住民や来訪者のニーズを踏まえ、まちとしてのビジョンを持って事業を進めること。周辺事業との兼ね合いも踏まえて、マネジメントしてほしい。市場調査においては、「条件が見えない」という意見もあるため、条件を具体化すること。運用管理は民間の力を入れて進めてほしい。

- ・ 交通ターミナルの出口となる踏切周辺については、安全性に配慮すること。駅舎とデッキの接続位置・形状についても、今後、丁寧な検討をしたい。
- ・ 駅前空間の立体的活用のイメージ図について、イメージであって整備内容を決定するものではないと注記はされているが、デッキ上部の2階以上の立体的活用空間の範囲とその配置が固定観念にならないように、デッキの北側上部の含めた立体的空間活用と、2階の機能配置の記載に関する配慮を検討いただきたい。連鎖型事業の具体的な内容についても教えていただきたい。本事業では、地域のまちづくり・賑わいの拠点も整備するため、方向性を明確にしながら、引き続き議論を深度化していければ。
- ・ 運行調整等に係る検討体制イメージについて、行政とは、具体的にどこの組織を指すのか。
- ・ 交通ターミナルは、バス・タクシーを分離しているため、利用者にとって分かりやすく、安全性にも配慮されている。一般車については、逆走防止対策を検討し、バスロータリーへの誤進入防止に配慮すること。雨天時は、一般車の利用需要が多くなることにより、一般車の駐車場所によって混雑や危険が生じる恐れがあるため、駐車場所の配置や運用方法について検討すること。タクシープールは、空き状況を外から把握できる仕組みが望ましい。
- ・ モビリティ分野や野球部などのアセットも活用しつつ、可能な限り協力する。本事業は、単体で終わることなく中長期的な視点で取り組んでいただきたい。
- ・ 全体計画が具体的な日程感についてなかなか出せないと思うが、どこかのタイミングで多くの方に情報・スケール感が示されるとより具体性が増すと考え。デザインセンターと連携して情報発信しているが、地域住民の意見を吸い上げることは重要であり、これからも追浜に住み続ける小中高生等の若い世代や、地元で働く方々の声も取り入れることで、より安心安全で魅力ある追浜になっていくのではないかと感じる。
- ・ 駅から離れたスポーツ交流ゾーンは、ゾーンに来る人がいかにまちと共存しながら行けるかが重要である。そのため、歩道や回遊デッキの強化等、一般市民の生活を損なわないまちづくりとしていただきたい。賑わいゾーンにおいては地元と協力しながらよりよいものができたらと考える。
- ・ 事業について、その都度情報を共有していただき、安心安全の観点から課題があれば関係機関との議論が必要。

- ・ 追浜がいかに重要かといった考えが詰まった事業計画である。今後、事業を進める中で課題が出ると思うが、協力したい。
- ・ 交通ターミナルや周辺道路の整備により、交通の円滑化や安全性の向上が期待できる。また、将来的には、R357 延伸による交通量増加が見込まれる中、円滑な交通処理に寄与する重要な事業であると考えられる。
- ・ 地域の皆様の日々の暮らしに大きく関わる事業と考える。改定される事業計画が、追浜地域の更なる発展につながることを願っている。今後も皆様と力を合わせて、よりよいまちづくりを進めていきたい。
- ・ 事業計画の改定を受けて、追浜駅周辺が今後どのように変わっていくのか、地域の皆様に「まちづくりと一体となった将来の姿」を具体的にイメージしていただけるよう、様々なツールを活用し、分かりやすく丁寧に情報発信を行うことが地元自治体の責務だと考える。地域の皆様の暮らしや駅周辺の利便性が、事業計画の改定によって、より一層向上することを期待している。
- ・ 事業計画の改定を踏まえ、事業のより具体化を進めるとともに、民間活力の導入具体化に向けて検討を進め、引き続き関係者の皆様と協力し進めていきたい。
- ・ 本事業は、バスタ機能だけでなく、三浦半島全体の防災機能、追浜のまちの魅力を高めるというミッションもあるため、丁寧な市民説明を心掛けて事業を進めていただきたい。
- ・ 本日の意見を踏まえ、事業計画の改定を進めてほしい。本日の検討会では住民に寄り添った形の意見があがった。加えて、広域的な防災性や三浦半島におけるバスタの位置づけがより明確になってきた。同時にマネジメント面ではサウンディングを通じて、様々な企業の意見を聞きながら、地元に入っていく準備も整ってきている。地元や事業者、市民、国が一体となった計画づくりをさらに進めていただきたい。

以 上